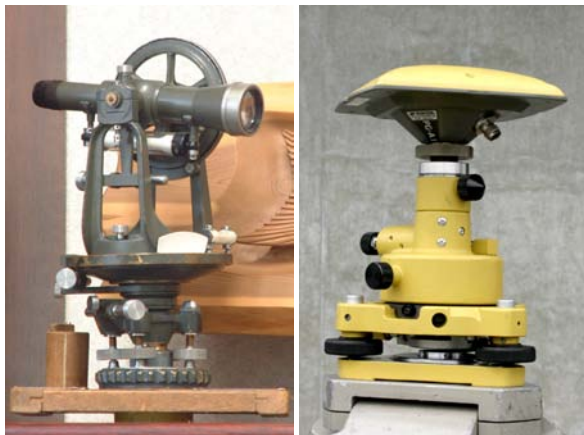


## 6月3日は「測量の日」



測量は、国土の利用や社会資本の整備などの基礎資料を提供していますが、基礎的なためその存在は目立たず、みなさんあまり認識されていません。

そこで平成元年より6月3日を「測量の日」とすることで、関心を高めるよう各種イベントを各地で実施しています。



※測量の日が6月3日なのは、「測量法」が昭和24年6月3日に制定されたことに基づきます。平成元年、建設省（現国土交通省）が測量法の制定40周年を記念し、毎年6月3日を「測量の日」としました。

### 道内で行われる主な行事

- 講演会(札幌市)
- 環境・防災パネル展(札幌市)
- 体験学習(札幌市、江別市)
- しんとつかわふるさとまつり(新十津川町)
- 三角山からこんにちは(札幌市)
- 恵庭市伊能大岡北海道展(恵庭市)
- 第4回ジオ・フェスティバル(札幌市)
- 第29回札幌市児童生徒社会研究作品展(札幌市)
- 第18回私たちの身のまわりの環境地図作品展(旭川市)
- 2008測量の日記念inなかふらの(中富良野町)
- 第6回測量技術講演会(札幌市)
- 土木技術パネル(札幌市)

行事に関する問い合わせ先／国土交通省 国土地理院  
北海道地方測量部 (TEL.011-709-2311)

### 「測量」という言葉はどこから来たのか

誰もが知っている「測量」という言葉ですが、現在伝えられているところでは、中国の「測天量地」という言葉から考案したものとされています。日本で初めて「測量」という言葉が書物に出てくるのは、儒学者・細井広沢の著「秘伝地図法大全集」享保2年(1717)です。

## 新年度交流会



当社では、新年度を迎えるにあたり今年も全社員を対象に「新年度交流会」を開催しました。

新年度に向けて職場の安全と時代の変化に適応できる人材育成と併せて、職員の親睦による組織強化を目的として開催しているものです。

今年の交流会では、例年どおり人事異動辞令交付、永年勤続表彰などを行った後、外部講師(厚生労働省認定キャリアアドバイザー)によるビジネスマナー講習を実施しました。

テーマは「社会人としてのコミュニケーションセミナー～人を動かすプレゼンテーションマインド」です。

聴講した新入社員はもちろんですが、先輩社員達にとっても社会人としての自覚を改めて再認識することなどが多くとても意義のあるものとなりました。



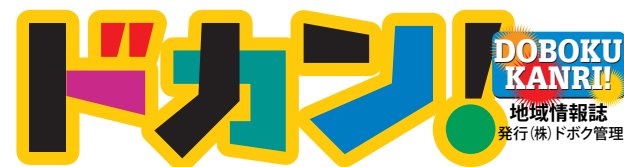
札幌支店

建設コンサルタント業・測量業・補償コンサルタント業・建築設計  
ISO 9001 : 2000 認証登録



株式会社ドボク管理

本社 ●〒090-0801 北見市春光町1丁目24番地3 TEL.0157-26-3321 FAX.0157-22-7508  
札幌支店 ●〒060-0908 札幌市東区北8条東1丁目3-7大ービル TEL.011-704-6704 FAX.011-704-6703  
旭川支店 ●〒070-0831 旭川市旭町1条13丁目688番14.4 TEL.0166-54-7270 FAX.0166-51-1363  
網走出張所 ●〒093-0076 網走市北6条西3丁目3番地 TEL.0152-43-4150 FAX.0152-43-4160



ホームページ <http://www.dobokukanri.co.jp/>



カラマツ集成材が使われている斜里町の道の駅「うとろシリエトク」

## 流域との連携～地域貢献活動 みずベネット・オホーツク

## 特集 | カラマツ再生!! 地場産業の取り組み

株式会社ドボク管理

# 流域との連携～地域貢献活動

## みずべネット・オホーツク

地域貢献活動の一環として、当社が参画している「みずべネットオホーツク」をご紹介します。

最近の児童や青少年の遊びは、TVゲームに代表されるイメージ型のいわゆる「ヴァーチャル系」が全盛であり、旧来の自然をフィールドとした「ライブ系」の遊びが極端に少なくなってきています。

そんな中、北海道網走管内において「みずべネットオホーツク」という団体が活動しています。

「みずべネットオホーツク」とは、地域住民、各企業・団体が集まって結成された任意団体で「自然を大切に、人と自然そして人と人がふれあう」ことを目的とし、各分野の専門家等の指導のもと網走管内の河川や河畔をフィールドとしてカナディアンカヌーやラフティング又は河川の水質調査や植樹等を行い、地域住民や児童等と共に自然とふれあう活動を行っています。

今回は、その活動の一端をご紹介します。



### ▼置戸小学校の児童たちとラ

フティングでは、常呂川の上流域という

こともあり、山の自

然を満喫しながらの体験となりました。林の中の川を下り、水面を舞う鳥たちや水中で泳ぐ魚たちを見て一緒に興奮したことが強く印象に残っています。

▼津別町と千葉県船橋市との姉妹都市交流では、網走川の上流域に「かわ塾」を開き、ラフティング体験をとおして、お互いの児童たちとの交流に関わりました。

川下りの途中では、一時雨が降り雷も鳴るという天候の急変に見舞われましたが、普段の生活の中ではなかなか味わえない体験ができたことで、雨でびしょびしょになりながらも参加者の皆さんは大変満足顔でした。最近の子供たちは、川は危険で汚いし遊べない所と思っており、事実、川で遊んだ事がない子がほとんどで、こんな体験で少しは認識も変わってくれたのではと思います。



▼女満別湖畔でのカヌー・ラフティングでは、総勢8名が乗れる大きなカヌーから二人で力を合わせて乗るカヌーなど色々なカヌーやラフト(いかだ)での体験のなかで、印象に残ったのが二人ペアによるカヌー競争です。二人の力を合わせて一番早く岸にたどり着くという簡単なものなのですが、なかなかうまく進んではくれないのがカヌーなのです。これに参加された方々は、見た目以上にカヌー操作の難しさを体験し、改めてそのおもしろさに感銘を受けたことでしょう。

こういった取り組みが、現代の若年層に自然にふれあう機会をできるだけ多く提供することで自然の大切さを感じてもらい、その思いを次の世代へと受け継いでほしいという願いを込めた未来ある活動になってくれることを切に願っています。



# カラマツ再生!!

## 地場産業の取り組み

### カラマツの歴史

カラマツは北海道ではもともと自生していなかった。明治30年代に本州から移植されたのが始まりである。その後、樹木の成長が早いことで、昭和30年代に炭坑の坑木用として大量に植林された。しかし、エネルギー需要の変化にともなう、炭坑閉鎖によって行き場を失っていったのである。併せて、カラマツの性質で、ねじれや割れ、ヤニが発生するため、製材に不向きと言うこともあって、大半が梱包材に利用されていた。また、我々土木業界では、間伐材の有効利用を目的とした木柵、土留め柵程度のイメージしかなかった。しかし、近年の加工技術の発展に伴い、地元材料の利用を目的とした地材地消などにより、カラマツが見直されてきている。

### カラマツとは

カラマツには他の木材に比べて、いくつかの優れた特徴がある。まず強度があり成長も早いので、その分価格も安い。現在、北海道には樹齢40～50年の大径木が大量にある。最

近では、枝やフシ(節)を減らすことが可能となり、かつ成長が早い品種の改良も行われてきている。また、反面フシがある方がより自然的とあって、内装材にも需要が増えてきている。ある自治体では、地産地消推進のため住宅建設に補助金制度を設けているようだ。材料も豊富で地域産業として成長が見込まれる業種だが課題がないわけではない。木は成長するのに数十年かかる。現在、伐採された後の植林の問題が生じてくる。このまま伐り続けると、あと30年程度で北海道のカラマツはなくなってしまうのである。もともと北海道に自生していなかったカラマツは、植林(民有林)のおかげで現在の生産が可能となっている。植林には、ひと山数百万円のお金がかかり、さらに樹齢40年、50年と伐採期まで成長させるには10年に1回の間伐作業が必要なのだ。それ以外にも維持管理には多くの手間がかかるのである。このような状況なので、林業に携わる人たちの資金力が大きく影響すると思われる。簡単に植林といっても、個人頼みが実状である。広大な面積を相手にするのだから、国策として考えてもらわないと事は動かないという人もいる。環境問題と併せて考えて行かなければならない問題ではないか。



### カラマツ集成材

今回特に注目しているのは、「カラマツ集成材」という大断面構造用集成材である。この加工技術を持つるのは、現在道内で3箇所だけである。今回取材させて頂いた「オホーツクウッドピア」と、その他石狩市と厚岸町に各1箇所ずつある。「オ

ホーツクウッドピア」さんは、北見市留辺蘂町の地元企業13社による協同組合として、設立10年を迎えようとしている。工場の規模も去ることながら、工場建設に使われている大断面集成材が見るものを圧倒する。外部に使われる部材は風雨にさらされるが、工場のパンフレットに紹介されている築50年を迎える物件もあり、耐久性に優れていることが実証されている。

### カラマツ集成材の特徴

- ① カラマツの弱点である反りやねじれが少なくなる。
- ② 強度は天然木の1.5倍になる。また、単位重量で比較すると、鉄骨やコンクリートの4～5倍の強度を持っており、築後、強度は増していくと言われている。
- ③ 木材は燃えるものだが、大断面になると表面の炭化により酸素供給が絶たれるため、鋼材より耐火性は優れている。
- ④ 梁や柱としての造形が自由にでき、施工性が良い。
- ⑤ 安定供給が可能。
- ⑥ 地材地消で家を建てられる。
- ⑦ グリーン購入法指定調達資材である。

最近では、途上国の経済成長の影響で鉄鉱石が値上がりしているため、鋼材価格が上がってきおり、鋼材と集成材を比較した場合、集成材の方が安価な時代となってきている。また、公共施設など、大勢が集う場において求められる、木のぬくもりや、人に優しい空間として、近年大規模な建築物に使用されてきている。今回、「オホーツクウッドピア」さんの集成材を供給した物件の中で、数ヶ所紹介しよう。

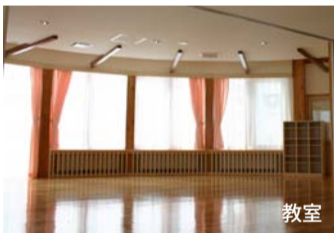
【取材協力】協同組合 オホーツクウッドピア



### 置戸町子どもセンター どんぐり

置戸町の「町子どもセンターどんぐり」という認定こども園が完成した。ここで注目したのは、置戸町立秋田小学校の学校林のカラマツを原材料とした集成材を使用したことである。地元で育ったカラマツを利用し、地材地消と材料費の削減を図ったことが町民にとっても優しい施設となる。

外壁は集成材の柱が等間隔に施され、アクセントを付けている。周辺にはカラマツを利用した木柵や遊具施設が設けられている。室内は梁材をふんだんに見せ、床と腰壁も木材を使用しており、木に囲まれた空間を作り上げる。



### 湧別町児童複合施設 たんぽぽ

湧別町児童複合施設「たんぽぽ」は、平成17年完成の保育所、児童センター、子育て支援の複合施設である。建物内に入ってみると、外観からは想像できないほどの木材をふんだんに使用した建物である。廊下も部屋も可能な限りダイナミックに梁、柱の集成材を見せ、小体育館や遊戯室では補強材を使用しながらも大スパンを可能としている。たまたま遊戯室では、大勢の園児がちょうどお昼寝の時間でずずずと眠っていた。



### 足寄町役場庁舎

町有林のカラマツを使用して、平成18年に完成した省エネ型木造寒地建築の庁舎である。カラマツ集成材の迫力は当然だが、その他のいろんな取り組みも紹介したい。

まずカラマツだが、各階のロビーを見ると視界に飛びこむ梁と柱に圧倒され、さらに端材を利用して作られたカウンターテーブル、床フローリング、階段の集成材まで、実に木のぬくもりを感じさせる創りとなっている。ここで、2階フロアーに巨大な送風口が2箇所ある。これはなんだろう？実はこれ「パッシブ換気システム」といって、地下の地熱(年間6℃)を利用してそこに外気を通し、夏は冷却、冬は加熱された空気を送り込む装置である。夏の送風口付近は寒いくらいだろう。冬は加熱された空気なので、冷たい外気を入れるよりは暖房費を節約できる。また、外壁の集熱面としてガラスカーテンウォールを使用し、冬の陽光を取り込むことでさらに暖房費の節減に努めている。燃料は「木質ペレット」といって、木くずや樹皮、林地残材から作られた固形燃料を使い、地域循環型社会を目指している。また、ペレットストーブの家庭への普及など、町民一体となって地産地消を目指している姿が見えてくる。



### おんねゆ温泉農業交流センター 花えーる

「北見市おんねゆ温泉農業交流センター花えーる」は、平成19年に北見市留辺蘂町温根湯に完成した施設で、地元農産物を使った新商品づくりや、地域住民の活動の場として利用されている。外壁はふんだんにカラマツを使用し、野山にとけ込んだ景観となっている。多目的研修室は、梁、柱の集成材や、木製筋交いなどをアクセントとしている。



最後に、取材の際ご協力頂いた皆様にお礼を申し上げますと共に、紙面上の都合により満足な内容をお届けできず、お詫びを申し上げます。尚、取材の全容は当社HPにおいてご覧になれますので、是非アクセスしてみてください。●この面の情報はドボク管理の職員が独自に取材したものです。発行責任者：斉藤幹次(取締役副社長) 制作：ドボク管理 地域情報誌編集室 (〒090-0801 北見市春光町1-24-3 TEL.0157-26-3321 FAX.0157-22-7508) <http://www.dobokukanri.co.jp/>